

2020年12月9日

北海道大学
総長 寶金 清博 様

北海道大学教職員組合
執行委員長 山形 定



新型コロナウイルス感染症蔓延下における大学入学共通テスト監督業務に関する要請

新型コロナウイルス感染症への抜本的対策が講じられないまま全国的に感染者数が増加し、現在第三波という状況を迎えています。北海道でもこれまでの札幌を中心として感染拡大から、全道的感染へと状況が変わり、医療崩壊が起きつつあるような地域も出ています。北海道大学でもBCPレベルが2に引き上げられ、講義はリモート中心で行なうことになっています。このように感染拡大防止策が取られる中、全国一律の大学入試試験（大学入試共通テスト）が例年通り行われる予定で、試験監督に関する説明会が始まりました。

新型コロナウイルス感染症の猛威が続くこのような状況下、緊張状態にある受験生を対象に全国一律の試験を行なうことは大きなリスクを伴うものです。そもそも、このようなリスクを冒してまで共通テストを行なうか否かも検討すべきではないでしょうか。無症状感染者からの市中感染が報道される中、監督に従事する高齢教職員や基礎疾患を持つ教職員は試験監督業務に伴う自らの感染可能性に不安を感じています。共通テストの実施そのものに対して北海道大学自身が判断することはできないかもしれませんが、感染拡大のリスクが高い対面テストを行なうことに対する国・文部科学省の見解を求めるべきです。私たち、試験会場で直接多くの受験生と対面する試験監督員の安全を確保するとともに、発生すると考えられるさまざまな問題の責任を現場の監督員に帰することのないよう下記3点を強く要請します。

記

- 1 テスト実施に関わるような「爆発的な感染拡大」（「令和3年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」）に現状は該当しないのか、「爆発的な感染拡大」とはどのような状況のことを指し、誰がいつ判断するのかを国・文部科学省が明らかにするよう要請すること。
- 2 試験を実施する場合には、試験監督業務に携わる職員の感染防止に必要と考えられる試験会場の設定、施設整備などを十分に行ない、国に必要な予算措置をとらせること。
- 3 共通試験実施で発生するあらゆる問題について、「原因は監督員の不注意」というような一方的責任転嫁を行なわないこと。

以上